

平成 27 年度

川崎市立中学校  
学習診断テスト  
英語科

誤答分析と学習指導上の考察

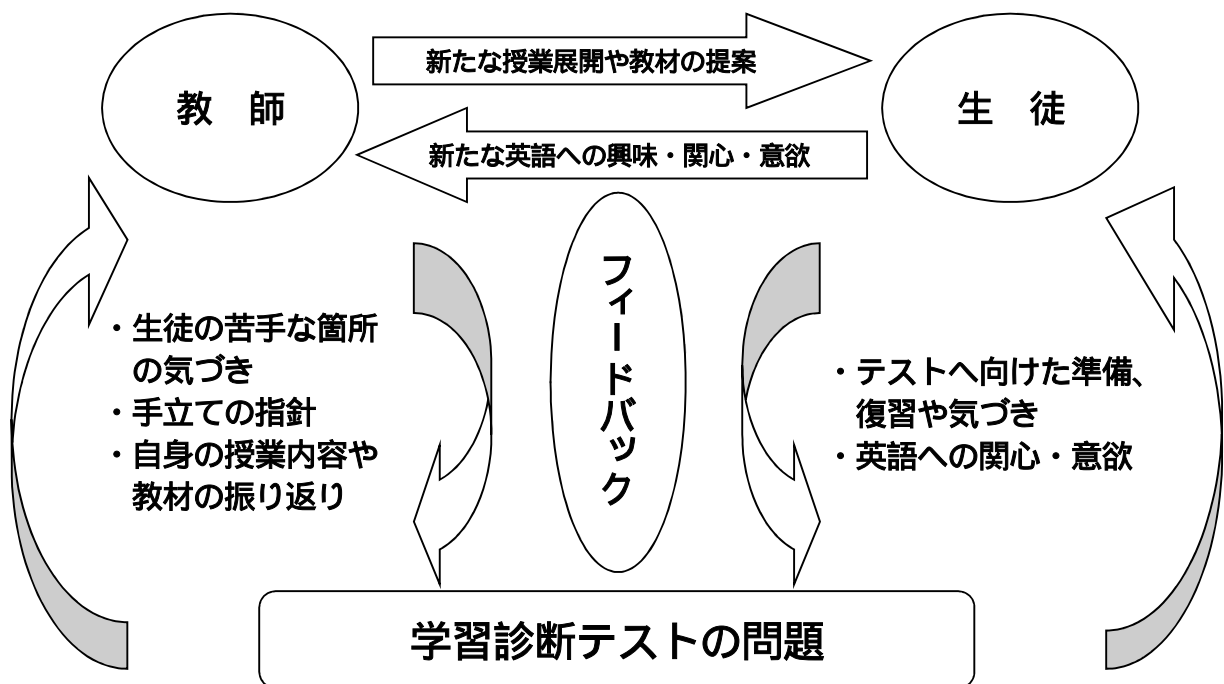
川崎市教育委員会  
川崎市立中学校長会  
英語科調査委員会

# 英 語

## ・作成方針と構成

### 1. 作問にあたって

- ( 1 ) 学習診断テストの目的・趣旨にそって、学習指導要領に示されている各観点の基本事項について、10 月末までの学習の定着状況が把握できるように出題の範囲やバランスを十分に考慮して問題を作成した。
- ( 2 ) 問題の形式と整列を検討し、基本的な知識・理解を問うよう、より妥当性の高い形式にて作問した。
- ( 3 ) 総合的かつ統合的に思慮する能力を判断できるようにした。
- ( 4 ) 共通の言語材料を検討し、より公平に診断できる標準的なテストの作成を目指した。
- ( 5 ) 聞きとりテストは、音声の聞きとり能力とともに、より自然な英語が聞きとれるかどうかも診断できるよう工夫した。
- ( 6 ) 「外国語表現の能力に関する問題」については、より観点のねらいを明確にした作問を工夫した。



## 2. 出題のねらい[英語]

	1年生	2年生	3年生
問1	●会話文の組立て 絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	●会話文の組立て 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	●会話文の組立て 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。
問2	●会話文の組立て 絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な応答を選択することができる。	●語彙の知識 英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	●語彙の知識 英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。
問3	●語彙の知識 絵を見て、場面や状況を理解し、適切な代名詞を選択することができる。	●語彙の知識 会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。
問4	●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとって、適切な動詞を選択することができる。	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。
問5	●語彙の知識 文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	●会話文の組立て 会話の流れに注意しながら、その内容を十分に理解し、その内容のまとめを適切に表現できる。	●会話文の組立て 会話の流れに注意しながら、その内容を十分に理解し、その内容のまとめを適切に表現できる。
問6	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	●説明や対話文の読み取り 説明文や対話文やメールなどから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問の答えとなる文や絵やグラフを選ぶことができる。	●説明や対話文の読み取り 説明文やメモの文章などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問の答えとなる文や絵やグラフを選ぶことができる。
問7	●説明や対話文の読み取り はがきや対話文などから正しく情報を読み取り、その流れを的確に判断して、質問の答えとなる絵、表、メモを選ぶことができる。	●長い文章の読み取り 文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。	●長い文章の読み取り 文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。
問8	●長い文章の読み取り 会話文の流れから適切な語を選んだり、話者の意図を読みとったりすることができる。	●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。	●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。
問9	●英作文 与えられた場面の中で、適切な表現を内容が相手に伝わるように、正しく書くことができる。	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。
問10	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って文章を正しく書くことができる。		
放送1	●リスニング(絵を選ぶ) 短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	●リスニング(絵を選ぶ) 短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	●リスニング(絵を選ぶ) 短い会話文を聞き取り、その内容を表す絵を選択することができる。
放送2	●リスニング(絵を選ぶ) 対話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	●リスニング(会話内容) 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文を選択することができる。	●リスニング(会話内容) 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文を選択することができる。
放送3	●リスニング(会話内容) 対話を聞き、その対話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	●リスニング(絵を選ぶ) 会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。	●リスニング(会話内容) 会話文の内容を理解し、その内容に対する質問の答えを適切に選択することができる。
放送4	●リスニング(会話内容) まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	●リスニング(会話内容) まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	●リスニング(会話内容) まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。

## Ⅱ. 第1学年の結果と分析

### 1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第1学年]

問題番号		趣旨	観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)		無答率
大問	小問	知・技	思判表	理言	正答率(%)			無答率		
1	a	◎		◎	会話文の組立て	絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。		97	0	
	b	◎		◎				93	0	
	c	◎		◎				88	0	
2	a	◎		◎	会話文の組立て	絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。		86	0	
	b	◎		◎				59	0	
	c	◎		◎				76	0	
3	①	◎		◎	語彙の知識	絵を見て、場面や状況を理解し、適切な代名詞を選択することができる。		97	0	
	②	◎		◎				69	0	
	③	◎		◎				73	0	
4	①	◎		◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとって、適切な動詞や助動詞を選択することができる。		63	0	
	②	◎		◎				52	0	
	③	◎		◎				66	0	
5	a	◎		◎	単語の並べ替え	文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。		57	10	
	b	◎		◎				65	11	
	c	◎		◎				56	8	
	d	◎		◎				38	19	
6	a	◎		◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。		67	4	
	b	◎		◎				75	4	
	c	◎		◎				43	4	
	d	◎		◎				33	4	
7	a	◎	◎	◎	説明や対話文の読み取り	会話文を読みとり、適切な絵や表を選ぶことができる。		82	0	
	b	◎	◎	◎				76	0	
	c	◎	◎	◎				63	0	
8	A	◎	◎	◎	長い文章の読み取り	会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。		60	0	
	B	◎	◎	◎				80	0	
	C	◎	◎	◎				61	0	
	D	◎	◎	◎				58	2	
	E	◎	◎	◎				63	4	
	E	◎	◎	◎				53	4	
9	①	◎	◎	◎	英作文	日本語の内容を適切に表す表現を使って正しく書くことができる。		60	10	
	②	◎	◎	◎				50	20	
10		◎	◎		英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って文章を正しく書くことができる。		28	24	
放送1	a	◎		◎	リスニング	短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。		99	0	
	b	◎		◎				99	0	
	c	◎		◎				98	0	
放送2	a	◎		◎	リスニング	対話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。		88	0	
	b	◎		◎				99	0	
	c	◎		◎				84	0	
放送3	a	◎		◎	リスニング	対話を聞き、その対話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。		88	1	
	b	◎		◎				83	0	
	c	◎		◎				68	0	
放送4	①	◎	◎	◎	リスニング	まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。		83	1	
	②	◎	◎	◎				97	2	
	③	◎	◎	◎				80	1	
	④	◎	◎	◎				39	9	

◎…主たる観点 ○…従たる観点

平均正答率(%)		
知識・技能		74.5
思考・判断・表現		63.8

## 2. 主な誤答と分析[英語第1学年]

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	1	97	0	3	3	絵を見て、場面に合った応答を選択することは概ねできていた。 選択肢だけ読んで答えるのではなく、絵と会話文の両方を理解する力を身につけさせたい。
	b	2	93	0	3	6	
	c	2	88	0	3 1	8 3	
2	a	3	86	0	1 4	13 1	be 動詞を使った疑問文に一般動詞で答える誤答は少なかったが、絵が表している状況を正確に理解することができず、誤答となる例が多かった。 疑問詞を使った疑問文の答え方については、普段のコミュニケーション活動の中で自然に定着を図りたい。
	b	2	59	0	1	30	
	c	1	76	0	3 2 4	11 8 5	
3	①	1	97	0	3	2	会話文の流れを理解せず答えたと思われる誤答が目立った。会話の流れを理解し、適切な代名詞を選べるように指導したい。
	②	3	69	0	2 1	21 10	
	③	2	73	0	3 1	22 5	
4	a	2	63	0	3 1	22 14	一般動詞と be 動詞の使い分けができていない誤答が目立った。授業の中で文の構造の違いに気づかせ、繰り返し指導したい。
	b	1	52	0	3 2	40 8	
	c	3	66	0	2 1	20 13	
5	a	Tuesday	57	10	Tuesday Tursday	10 6	授業の中で単語を確認する際は、間違えやすいものに注意を払わせ文字と音のつながりを意識させたい。
	b	sister	65	11	sista sistar	6 4	
	c	team	56	8	teem teme tame	8 8 4	
	d	guitar	38	19	guiter	25	
6	a	2413	67	4	2143 2431	16 6	a では、冠詞の使い方の誤答が目立った。 c の What+名詞の疑問文については、直後に名詞がこない誤答が多くみられた。疑問詞+名詞の表現についても理解、定着を図りたい。 d では be 動詞の疑問文の理解が不十分なための誤答が多くあった。理解、定着を図りたい。
	b	1432	75	4	1324 1423	10 6	
	c	2431	43	4	4312 2413	19 4	
	d	3412	33	4	4321, 4132, 3421 3421	30 4	
7	a	1	82	0	4 2	9 8	a では、はがきの内容を読み取ることが概ねできていた。 b や c では会話文を読んで、情報を整理しながら読む力が求められている。授業でもまとまりのある英語から情報を整理して理解する力を高めていきたい。
	b	3	76	0	2 4	14 6	
	c	4	63	0	1 3 2	22 11 4	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
8	A	1	60	0	3 2	17 16	<p>選択肢が英語であると、それだけでやはり正答率が低くなる。</p> <p>長文の一部の内容をまとめる問いDは、昨年度からの新しい形式であるが、設問の文の理解が不足していると思われる誤答が多かった。</p> <p>英文の内容把握が正確にできるよう、まとまった英文を読む機会を設け長文に慣れさせたい。</p>
	B	4	80	0	2 3	9 8	
	C	1	61	0	3 2	32 7	
	D	3	58	2	2 1	19 13	
	E	2 6	63 53	4	5 4 1	36 24 12	
9	①	my new	60	10	a my new new my	6 4	<p>代名詞の前に冠詞を置くというような誤答があった。冠詞の用法を授業の中で意識して指導したい。</p> <p>細かい部分にも注意させながら書き取り練習を行う必要がある。</p>
	②	very well	50	20	very good very wall	18 4	
10	I play soccer every day. I'm on the soccer team.		28	24			<p>自分なりに表現しようとする生徒が多い中で、be 動詞と一般動詞を混同したり、冠詞の用法を間違えたりする誤答が多かった。</p> <p>授業で英文を書く機会を継続的に設け、書く力をつけさせたい。</p> <p>また、表現活動を通して2文、3文と情報を付け加えたまとまりのある英語を発信できるように指導したい。</p>
放1	a	3	99	0			<p>初歩的な英語を聞き取る力は概ね定着している。</p> <p>日頃の授業の中で、英語を聞き取る機会を継続して設けたい。</p>
	b	1	99	0			
	c	4	98	0			
放2	a	2	88	0	3	11	<p>対話を聞きその場面や状況にあった絵を選択することは、概ねできていた。</p>
	b	1	99	0	1	1	
	c	2	84	0	3	16	
放3	a	1	88	1	2 3	7 5	<p>普段使う簡単な会話のフレーズは概ね定着している。</p> <p>質問の英文を聞き取る際のポイントを意識して聞き取りができるように指導したい。</p>
	b	3	83	0	4 1	7 5	
	c	3	68	0	2 1	15 11	
放4	①	アメリカ	83	1	US	9	<p>まとまった英文を聞き、情報を整理することは概ねできていた。</p> <p>木曜日と火曜日は混同しやすいのでThursdayとTuesdayの音の違いに注目させ、日頃のクラスルームイングリッシュの中で定着をはかりたい。</p>
	②	新しいギター	97	2			
	③	上手	80	1	選手ではない 上手でない よい選手ではない	4 4 3	
	④	木曜日	39	9	火曜日 日曜日 水曜日	23 4 4	

## Ⅲ. 第2学年の結果と分析

### 1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第2学年]

問題番号		趣旨		観点		問題の内容	出題のねらい	正答率(%)		無答率
大問	小問	知・技	思判表	理	言					
1	a	◎			◎	会話文の組立て	絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。		95	1
	b	◎			◎				77	1
	c	◎			◎				79	1
2	①	◎			◎	語彙の知識	英文を読みとり、日本語にあった語を与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。		65	6
	②	◎			◎				60	12
	③	◎			◎				40	19
	④	◎			◎				60	24
3	a	◎			◎	語彙の知識	会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。		69	1
	b	◎			◎				65	1
	c	◎			◎				52	1
	d	◎			◎				80	1
	e	◎			◎				63	1
4	a	◎			◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ日本語に合うように文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。		40	4
	b	◎			◎				69	3
	c	◎			◎				35	3
	d	◎			◎				82	3
	e	◎			◎				30	4
5	a	◎	◎		◎	対話文の読み取り	対話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選ぶことができる。		31	1
	b	◎	◎		◎				27	2
	c	◎	◎		◎				45	2
6	a	◎	◎		◎	説明や対話文の読み取り	説明文や対話文や手紙などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵を選ぶことができる。		66	2
	b	◎	◎		◎				32	3
	c	◎	◎		◎				35	3
7	A	◎	◎		◎	長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。		67	3
	B	◎	◎		◎				66	3
	C	◎	◎		◎				75	3
	D	◎	◎		◎				59	5
	E	◎	◎		◎				32	6
	F	◎	◎		◎				39	6
	F	◎	◎		◎				47	7
8	①	◎	◎			英作文	日本語の内容を適切に表す表現を使って正しく書くことができる。		34	19
	②	◎	◎						23	25
9		◎	◎				与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。		24	17
放送1	a	◎			◎	リスニング	短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。		56	1
	b	◎			◎				79	1
放送2	a	◎			◎	リスニング	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。		73	1
	b	◎			◎				17	1
放送3	a	◎			◎	リスニング	会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。		53	1
	b	◎			◎				22	1
放送4	①	◎			◎	リスニング	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。		80	5
	②	◎			◎				23	9

◎…主たる観点 ○…従たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	58.8
思考・判断・表現	45.2

## 2. 主な誤答と分析[英語第2学年]

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	1	95	1	2	2	絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することは概ねできていた。 b の選択肢は他と比べて正答率が低い。人物の表情から相手の心情を読み取り、適切に応答できるようにさせたい。
	b	2	77	1	3	15	
	c	1	79	1	2	6	
2	①	family	65	6	famiry	10	発音と意味は理解できていても、L と R、C と S のように、英単語を書くと綴りに誤りが生じる。文字と音のつながりを意識させたい。
	②	excited	60	12	exsited	5	
	③	beautiful	40	19	beutiful burtifull 他	4	
	④	bought	60	24	bouget bught 他	1	
3	a	3	69	1	2	14	a では不定詞、動名詞、過去形の違いを理解させ、定着を図りたい。 b、d では場面に合わせた会話練習を繰り返し続けることで定型句の定着を図りたい。 c、e では前後の会話から意味を推測し答えを選択することが難しかったと思われる。問題に関わる文だけでなく、場面を理解して答えられるよう指導を続けていきたい。
	b	1	65	1	2	14	
	c	2	52	1	4	26	
	d	2	80	1	1	3	
	e	4	63	1	1	13	
4	a	2143	40	4	2413	13	a は Is there ～は理解できていても、その後の語順が日本語の語順になっており、c は people eat と人を表す語の次に動詞を続けようとして誤答になる傾向があった。 全体的に、日本語の語順から抜け切れないでいる。しかし、主語の次に動詞がくることは定着していると思われるので、基本的な英文の理解を充実させ、英語の語順に慣れさせて定着を図りたい。
	b	3214	69	3	2134	5	
	c	4312	35	3	4231	30	
	d	3124	82	3	1243	6	
	e	4231	30	4	2341 4132	25 14	
5	a	A:2 B:1	31	1	A:2 B:2	45	a、c では会話から Emma が誰と何をしたのかを読み取ることが難しかったと思われる。 b では A は正しい選択肢を選んだが、どの建物を探しているのかまで読み取れずに誤答となったと思われる。 まとまりのある文章を読み、内容を正しく理解し、まとめる活動を行いたい。
	b	A:1 B:3	27	2	A:1 B:2	42	
	c	A:3 B:2	45	2	A:2 B:3	10	
6	a	1	66	2	2, 3, 4	2	b、c は英文の情報を整理して考えなければ答えを導き出せない問題であったため、正答率が低かったと思われる。英文を正確に読み取る活動を授業内に設けたい。
	b	4	32	3	1, 2	22	
	c	2	35	3	3 4	25 19	



大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
7	A	3	67	3	2	14	<p>1人の主人公について書かれているので、比較的読みやすい内容であったと思われる。</p> <p>Eの問題は答えを選ぶ際にも、まとまった英文を読まなければならない、正答を選ぶのが難しかったと思われる。</p> <p>授業の中で、教科書だけでなく様々な英文を読むことで、まとまりのある文を短時間で理解できるようにさせたい。</p>
	B	2	66	3	1	9	
	C	4	75	3	3	11	
	D	1	59	5	2	13	
	E	4	32	6	3	21	
	F	3 5	39 47	6 7	2 6	12 33	
8	①	Can you write kanji	34	19	Can you (rite,read) kanji	5	<p>日本語に合わせた単語を選ぶことに難しさを感じたと思われる。授業の中で、様々な種類の題材について、正しく英文が書けるように指導したい。</p>
	②	Where do you want to go next year	23	25	What do you go next year	3	
9		I like baseball. I practice baseball every day. I want to be a good player.	24	17			<p>「自分の好きなこと」が題材ということもあり、英語で表現しようとする意欲がみられ、無解答が少なかった。</p> <p>前置詞の選び方や使い方、複数形の間違いによる誤答が多かった。また、綴りの間違いも多くみられた。</p> <p>表現活動を通して、2文、3文と情報を付け加えたまとまりのある英語を発信できるようにさせたい。</p>
放1	a	1	56	1	3	16	<p>初歩的な英語を聞き取る力は概ね定着している。</p> <p>しかし、情報を正しく整理して判断することができなかったことが誤答につながったと思われる。</p> <p>ALTの話やCDなども含めて聞く機会を多く確保して、聞く活動の充実を図りたい。</p>
	b	3	79	1	2 4	8 7	
放2	a	2	73	1	4 1	9 6	<p>aは定型パターンの英語の会話についての慣れもあり、正答率が高かった。しかしbはしっかりと情報を聞き取り、どのように返答するのか考えなければならなかったので正答率が低かった。</p> <p>ALTと話す機会を増やすなど、しっかりと聞き取って返答する習慣を身につけさせたい。</p>
	b	3	17	1	1 4	37 28	
放3	a	1	53	1	2	21	<p>aでは買い物をする際に必要な情報の聞き取り、bでは登場人物の動きと時間を合わせて聞き取ることが難しかったと思われる。会話練習を通して定着を図りたい。</p>
	b	2	22	1	1	62	
放4	①	飲食してはいけません	80	5	食べ物を食べないでください。	5	<p>②は最後まで情報を聞くことができず誤答が多かった。リスニング活動の中で、まとまった英語を聞き、正確な情報を聞き取れるように指導したい。</p>
	②	4時30分以降は入館できません。	23	9	4時30分には出てください。	29	

# IV. 第3学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率[英語第3学年]

問題番号		趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)		無答率
大問	小問	知・技	思考	技	知						
1	a	◎			◎	会話文の組立て	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。		97	0	
	b	◎			◎				84	0	
	c	◎			◎				73	1	
2	①	◎			◎	語彙の知識	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。		74	11	
	②	◎			◎				31	35	
	③	◎			◎				47	17	
	④	◎			◎				54	21	
3	a	◎			◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。		83	0	
	b	◎			◎				76	0	
	c	◎			◎				60	0	
	d	◎			◎				84	0	
4	a	◎			◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。		71	1	
	b	◎			◎				56	0	
	c	◎			◎				35	0	
	d	◎			◎				48	2	
	e	◎			◎				38	2	
5	a		◎		◎	対話文の読み取り	対話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選ぶことができる。		49	0	
	b		◎		◎				62	0	
	c		◎		◎				43	0	
6	a		◎		◎	説明や対話文の読み取り	説明文やレポートの文章などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する文や絵やグラフを選ぶことができる。		37	0	
	b		◎		◎				37	0	
	c		◎		◎				46	2	
7	A		◎		◎	長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の流れから、文章の概要を理解したり、話者の意図を読みとったりすることができる。		46	2	
	B		◎		◎				65	2	
	C		◎		◎				56	3	
	D		◎		◎				38	4	
	E		◎		◎				25	6	
	F		◎		◎				48	3	
	G		◎		◎				55	10	
	G		◎		◎				34	10	
8	①		◎	◎	○	英作文	日本語の内容を適切に表す表現を使って正しく書くことができる。		16	21	
	②		◎	◎	○				32	28	
9			◎	◎			与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。		7	20	
放送1	a	◎			◎	リスニング	短い会話文を聞き取り、その内容を表す絵を選択することができる。		67	0	
	b	◎			◎				41	0	
放送2	a	◎			◎		短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。		67	0	
	b	◎			◎				58	0	
放送3	a	◎			◎		会話文の内容を理解し、その内容に対する質問への適切な答えを選択することができる。		74	0	
	b	◎			◎				78	0	
放送4	①		◎		◎		まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。		29	2	
	②		◎		◎				68	12	

◎…主たる観点 ○…従たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	60.9
思考・判断・表現	42.1

## 2. 主な誤答と分析[英語第3学年]

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	2	97	0	3	3	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な表現を選択することは概ねできていた。今後も自然な会話の流れを重視した指導を継続したい。
	b	1	84	0	3	13	
	c	2	73	1	3	20	
2	①	forever	74	11	fishing	5	他の問題と比べ、無答率の高さが目立った。誤答に関しては、意味としては理解できているが、正しく綴ることができていなかったものと、状況に合わせて活用させることができていないものの大きく2つに分かれた。 日頃から単語の練習を取り入れたり、家庭学習に繋がる活動を取り入れたりすることで定着を図りたい。
	②	foreign	31	35	foregin farming	2 2	
	③	taught	47	17	tought teaches	10 7	
	④	skills	54	21	saving skiles	2 2	
3	a	3	83	0	4 1	9 7	全体的に正答率が高かった。 bでは、call や give など目にする頻度の高いものを選択する誤答が多かった。 cでは、ask+人+to 不定詞の用法が身につけていないための誤答が目立った。 SVOO や SVOC の文型、動詞+人+to 不定詞などの文を、様々な場面を設定し、繰り返し使用することで定着を図りたい。
	b	2	76	0	3 1	8 7	
	c	4	60	0	3 1	18 16	
	d	2	84	0	3 4	6 6	
4	a	25341	71	1	25134 25314 25431	4 4 4	cでは選択肢の中に to と動詞が含まれていたため、短絡的に不定詞の形にしてしまう誤答が目立った。 dは2年生で学習した There is/are～ と不定詞の形容詞的用法を組み合わせた文であるが、文構造の曖昧な理解が多かった。どちらもスパイラルな学習を通して定着を図りたい。 eは教科書本文にほぼ同じ内容の文があったにもかかわらず、正答率が低かった。日頃から教科書の多読や暗誦の習慣を身につけさせたい。
	b	34521	56	0	31452 31524 34152	24 2 2	
	c	42513	35	0	42135 54213 42531	14 8 5	
	d	52431	48	2	52314 52134 52143	23 6 2	
	e	53214	38	2	21453 21534 14235	8 5 4	
5	a	A:1 B:2	49	0	A:2 B:1 A:2 B:3	13 12	aでは、会話の内容全体ではなく、前半部分の言い換えをしている誤答が目立った。 bでは、助動詞の用法や接続詞 but の逆接の意味を理解していないための誤答が目立った。 cでは、後半部分の接続詞 because 以下と主節の関係について理解をしていないための誤答が目立った。 英語の情報を適切に整理する力とともに、読み取った情報を生徒自身が言い換えたり、まとめたりする力を育成する活動を取り入れたい。
	b	A:3 B:2	62	0	A:2 B:2 A:3 B:1	11 7	
	c	A:1 B:1	43	0	A:1 B:2 A:1 B:3	14 13	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
6	a	4	37	0	1 2 3	28 22 13	<p>a は箇条書きで羅列された情報を的確に理解する力、b では時刻表と英文の両方を見比べ、段階を追って正答を導き出す力、c は長文の中から必要な情報を見つけ出す力を測った。</p> <p>様々な種類の英文に触れる機会を多く作ることで、その情報を整理し、読み取る力を身につけさせたい。</p>
	b	1	37	0	2 4 3	25 24 14	
	c	4	46	2	1 3 2	21 20 11	
7	A	4	46	2	3 2 1	23 15 14	<p>D では、正答率の低さが目立った。本文の空欄の中に入る英文を選ぶ問題だが、空欄の前後の内容や本文全体の流れを十分に理解していないためと思われる。</p> <p>E は、特に正答率が低かった。会話の内容から話者の意図を読み取ることが不十分だったためと思われる。</p> <p>G では、選択肢が本文の内容を言い換えたものであるということに気づかなかったために、その他の選択肢を選ぶ誤答が目立った。</p> <p>文章の内容を読み取り、概要や話者の意図を理解する力を身に付けさせたい。そのために、まとまりのある英文の題材を利用し、長い文章を日本語に訳さずに英語で読み取る機会を授業で増やしたい。</p>
	B	2	65	2	3 4 1	19 8 6	
	C	1	56	3	4 3 2	23 15 4	
	D	3	38	4	2 4 1	30 15 13	
	E	4	25	6	3 1 2	44 17 9	
	F	2	48	3	4 3 1	23 18 16	
	G	1 4	55 34	10	6 3	35 26	
8	①	are known as	16	21	are known to were known to など	9 9	<p>全体的に正答率が低く、無答も多かった。既習表現を繰り返し使用できる場面を設定して定着を図りたい。</p>
	②	how to cook	32	28	making “zoni” is his make など	2 2	
9		(例) “Kawasaki Daishi” Kawasaki Daishi is a big temple. Try to eat <i>kuzumochi</i> there. <i>Kuzumochi</i> is famous and delicious food.	7	20			<p>自分の身近な場所や施設などを紹介する問題だったためか、書こうとする意欲は高く感じられたが、正答率は低かった。</p> <p>文法や綴りの正確さばかりにとらわれず、既習事項や接続詞などを用いて、平易でつながりのある英文を書く力の育成を図りたい。</p>

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
放1	a	4	67	0	1	23	aでは、視覚情報が助けとなったが、bでは、逆に視覚情報に頼った誤答が目立った。 様々な場面のやりとりを聞く活動を増やし、情報を正しく聞き取る力を伸ばしたい。
	b	2	41	0	3	50	
放2	a	3	67	0	2 4	22 7	a、bとも相手への質問の文でポイントとなる times や others の意味を正しく判断できていないための誤答が目立った。 ポイントとなる語を聞き取って、会話の流れをつかむ力を育てたい。
	b	4	58	0	1 2	21 11	
放3	a	1	74	0	2 3	13 13	どちらも正答率が高く、概ね理解できていた。 様々な場面のやりとりを聞く活動を増やし、情報を正しく聞き取る力を伸ばしたい。
	b	2	78	0	3 1	13 9	
放4	①	小さい子どものいる母親やお年寄り	29	2	妊婦さんや小さい子どもたち、高齢者	16	電車内のアナウンスという状況設定だったため、英文を正確に聞かずに、実際に日本語で流れるアナウンスを思い浮かべて書いたと思われる誤答が目立った。 電車だけでなく、生徒の日常生活の中で英語でのアナウンスやナレーションが流れている場所や場面は数多くある。それらを生徒自身に探させたり紹介したりするなどして、英語をより身近に感じられる工夫をしていきたい。
					お母さんと小さい子どもたち、高齢者	15	
	②	左のドアが開きます	68	12	右のドアが開きます	9	

## V. 全体の考察と今後に向けて[英語]

### 1. 全体の考察

今年度も、検査本来の目的、趣旨をとらえ、学習状況を把握できるように作問した。問題全体の英文については、場面設定も含め、より自然な実際のコミュニケーションを意識した文章作りを心がけた。長文問題に関しては、なるべく平易な文章を使用し、文章量を多くした。また、10行程度の文章を丁寧に読む問題と長文の概要を把握する問題とを出題し、多様な種類の文章を用いながら生徒の英文読解力を計った。

英作文問題については、学習指導要領の「書くこと」にある『自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。』という観点を考慮し作問した。集計に関しては、外国語表現の能力に関する問題では、内容を重視する集計を、言語や文化に関する知識・理解に関する問題では、文字や文法を重視するような基準を設定した。英作文問題の集計に関しては、アンケートで集計基準についてご意見を毎年いただくが、今後も各校のCandoリストや日頃の授業実態に合わせた判断、生徒の書く意欲を伸ばす判断を元にした集計をお願いしたい。来年度もより妥当性が高く、個々の生徒の各観点の力を診断できるような作問を進めていきたい。

問題の趣旨ごとに平均正答率を見ると、1年生「知識・技能」74.6%、「思考・判断・表現」63.8%、2年生「知識・技能」58.8%、「思考・判断・表現」44.8%、3年生「知識・技能」60.9%、「思考・判断・表現」42.1%であった。1年生では、「知識・技能」に関する問題と「思考・判断・表現」に関する問題は同程度の結果であったが、2年生、3年生では、「知識・技能」に関する問題と「思考・判断・表現」に関する問題との差が大きくなっていることがわかる。

今年度の集計結果から、より一層の「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」の4技能を統合的に活用できる授業デザインの工夫が必要を感じる。学年が上がるにつれて英作文の無答率が上がっているため、特に書く能力を高める活動を積極的に行う必要があると考えられる。学習する語彙が増え、文法事項がより複雑になっていくが、持っている知識を活用して、自分の思い、考えを書こうとする意欲を育てたい。日頃の授業で、生徒自身の様々な思いを英文で書く、遠足などの行事の思い出を英字新聞で発表するなどの課題を設定し、外国語表現の能力を伸ばすよう努力したい。対話活動などのオーラルコミュニケーション活動、英文を読み解く活動、文法の説明や練習問題などを扱いながら、いかに英文を書く活動の時間を継続的に確保するかが大きな課題となろう。

### 2. 問題ごとの考察

#### (1) 知識・技能に関する問題について

- 1 学年一・綴りと発音の関連性の理解が不十分であった。初歩的な文法の知識が整理されていない。疑問詞を使った疑問文への答えを正しく選ぶことができていなかった。第2文型と第3文型の区別がついていないための誤答も目立った。さらに、その疑問文となると文型がより定着していないことが分かる。問6（並べ替え問題）では、C. What (do you like music)? という例年多く見られる誤答が今年も少なくない。さらに、D. Lisa, (that is your man) teacher? や Lisa, (that man is your) teacher? という誤答も目立った。疑問文であり、最後に疑問符もあることから、見落としではなく、疑問文の形が定着していないと考えられる。このような問題形式にまだ慣れていないという原因も考えられる。また、聞き取り問題に関しては、基礎的な対話の内容はほぼ理解できていた。

- 2 学年一・問2③の単語を書く問題の結果から、綴りと発音の関係が十分に理解できていないと考えられる。問4（並べ替え問題）では、A. Is ( there near a post office here )? の誤答が多く、前置詞の使い方が定着していないことがわかる。また、C. Yes, ( people eat in America ) sushi. の誤答が多かった。in America という表現の印象が強く、前後を考えず答えた生徒と名詞の後置修飾の知識が十分でなかった生徒がいると考えられる。聞き取りテストでは、初歩的な文章の理解は正答が多かった。しかし、定型以外の対話になると正しく内容を聞き取る応用力が無く、聞こえてきた単語に頼って選択しているようだ。
- 3 学年一・問2（日本語に合う単語を書く問題）では、無答も少なくない。語彙力不足が考えられる。問3（適切な語句を選ぶ問題）では、正答率が高かった。基本的な語法が身についていると考えられる。問4（並べ替え問題）では、C. Judy, will you ( tell me to visit where ) in Houston? と to 不定詞の形を選んでいる。また、e. では Kawasaki Daishi is ( the most famous temples one of ) in Japan. という誤答が多くあった。one of …s は教科書にもある表現であるが、語順は定着していないようである。放送による聞き取りテストでは、概ね正答率が高く、基礎的な表現を理解できていることが分かる。数字の聞き取りは難しかったことが、問題1のbの誤答から分析できる。

## (2) 思考・判断・表現に関する問題について

- 1 学年一・問7は絵や表があるためか、正答率は高かった。問8（長文問題）は、概ね正答率が高かった。問9（英作文問題）では、He's ( a my new ) friend. や He's ( new my ) friend. などの誤答が目立った。問10（英作文問題）では、I want cat. I'm not good player. などの冠詞がないもの、I want a new comic books. などの複数形、単数形の区別がついていないもの、I don't good a player. のような一般動詞と be 動詞の混同が見られた。また、無答も少なくなかった。1年生のこの時期に、文法、語法が定着している生徒は多くはないと考える。正確に書くよりも、英語で表現したいという意欲の向上を主眼に指導を繰り返し、無答がより少なくなるようにしたい。
- ・聞き取りテストは正答率が高く、初歩的な対話や説明の内容を聞き取る力はついていようである。しかし、問題4④Thursday を火曜日と聞き取った生徒が23%いることも念頭に置き指導を繰り返したい。
- 2 学年一・問5（対話の内容を要約する問題）の誤答から、「だれが」「どうする」といった重要な内容を適切に読み取ることができていないことが分かる。登場人物が3人以上になると短い文でも情報を整理できていないようだった。また、知らない物事が話題になっている場合には推理する力も必要だが、bの問題では推理する力が十分ではなく誤答になっているようだ。問6のb（正答率32%）、c（正答率35%）についても、行間を読み取るような情報を整理する力を知ることができた問題であった。
- ・問7（長文問題）のA～Cの問題は日本語の選択肢から選ぶ形式であった。正答率は70%近くあり良好な結果と考えられる。しかし、D～Fは選択肢が英語となり、正答率はD（60%）、E（32%）、F（平均42%）であった。内容を正確に読み取ることができた生徒が正答を導きだせたと考えられる。
  - ・問8（英作文問題）では、無答が①19%、②25%であったのに対し、問9（英作文問題）では、無答が17%であった。問9の話題が書きやすいものであったことが原因であると考えられる。しかし、1つのことについてつながりのある複数の英文で正確に表現する力は不十分であると考えられる。

- ・聞き取りテストの問題4の正答率は①が80%、②が23%であった。概要は聞き取ることができたが、正しい解答となるよう日本語に直すことができなかったことが原因と考えられる。
- 3学年一・問5（対話の内容を要約する問題）では、情報を適切に整理する力ともに、読み取った情報を言い換えたり、まとめたりする力が必要である。「だれが」「どうする」といった基本的な情報を正確に読み取る練習が不足している集計結果であった。
- ・問6では、aは箇条書きで羅列された情報を的確に理解する力、bでは時刻表と英文の両方を見比べ、段階を追って正答を導き出す力、cは長文から必要な情報を見つけ出す力を測った。様々な種類の英文に触れ、読み取る力を身につけさせたい。
- ・問7（長文問題）では、比較的平易な英文で構成された問題を作った。注を付けた語も極力少なくした。しかし、読解のスピードが遅いのか、英文の後半に関する問題Eの正答率は25%と一番低い数値であった。問8（英作文問題）は、身近な話題であったためか無答は少なかった。しかし、思いついた日本語を自分が表現できる英語に置き換えることができず、細かい誤りが少なくなかった。簡単なことから、自分の意見や事実を英文にする活動を充実させたい。

### 3. 指導にあたって

平成27年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくることと、その改善のための指導の留意点を問題ごとに記したい。

#### （1）知識・技能に関する問題について

語彙の指導については、単語テストや宿題などで単語を書く作業を各学校で実施しているが、定着率は高くはないようである。フォニックス指導は3年間を通した指導が必要だと思われる。音読活動を繰り返し行い、対話活動を充実させ、より確実に語彙を増やし語順に慣れ親しむ活動の継続が必要である。また、並べ替えの問題の集計結果から、第2文型と第3文型の違いが、1年生のみならず3年生でも定着していないことが分かる。冠詞、疑問詞、助動詞の使い方や基本文型の語順が正確に身につくよう、既習の文法事項や単語を繰り返し利用したスパイラルな学習の必要がある。

聞きとりテストでは、初歩的な対話や説明、視覚的なヒントがある問題の正答率が高いが、文章が長くなると情報を整理して聞き取ることが難しくなるものである。日頃から積極的に教師、ALTが英語で身近な話題で語りかけ、まとまった英文の内容の概要を理解するような活動を継続したい。

#### （2）思考・判断・表現に関する問題について

例年同様、絵やグラフ、メールなど、実際のコミュニケーションでありえる説明文や対話文の読み取りについての問題では、短い文章、対話文でも情報が複雑になると細かいところまで読み取ることができていなかった。長文読解問題では、時間内に素早く内容を細部まで読みとることができていなかった。このような読解の技術は日頃の訓練により伸びてゆくと思われる。教科書を用いた内容理解の授業では、1つのLessonをA、B、Cと短く分割して読む授業が一般的かと思われるが、それだけではいわゆる長文読解力育成は十分とは言えない。教科書の英文だけでなく川崎市総合教育センターHPにあるALTが書いた素材などを活用して、ある程度まとまった英文の内容を把握させる活動を取り入れたい。その際、いつ・どこで・だれが・どうした、といった内容のあらすじの要約や時間の流れにそって話を再構成させるstory retellingの活動も有効であろう。聞きとりテストでは、まとまった英文を聞き、要点を押さえて聞き、日本語で適切に答えることができていた。

作文問題として、重要なイディオムや文法事項を確認する部分英作文の問題と課題にあった内容の文を書く自由度の高い問題を作った。どの学年とも、正答率は高くはなく、学年が上がるほ



見られた点は評価できる。生徒が考えついた日本語の内容と英語で表現できることの差は大きく、頭に浮かんだ日本語を学習した英語に訳してから書くためには、日頃から思ったことを書く訓練が必要である。その際、思いついた日本語を2つ、3つに分けて英文で表す力が必要である。英語学習における母語の影響を考慮しながら、和文英訳におけるスモールステップ作りの工夫も多くの生徒に必要である。

#### 4. 授業改善にむけて

生徒の主体的な学びを導くためには、「わかる」「できる」といった小さな達成感の積み重ねが大切である。そのためには、生徒の目線に合った small step を授業に丁寧に組み込んでいく必要がある。生徒に理解可能な input 活動があつてこそ、生徒は理解し、自分の中に取り込み、活用していくことができる。教師の一方的な説明などの input 活動に時間を費やし output 活動の時間が少ないことも多いようである。生徒に様々な発表の機会を与え、自信を持たせ、主体的に学ぶ手だてを示すことは重要である。さらに、生徒の発表から指導が十分ではない部分を教師は見取ることができる。発表活動を繰り返すことで、正確さ、流暢さが向上するような仕組みも確立していきたい。

また、英語はコミュニケーションツールの学習である以上、授業中の設定にもインフォメーションギャップがなくてはならない。そのためにもALTを活用し、自然なインフォメーションギャップ、カルチャーギャップを生かしたい。また、グループワークなどの協働的な学習は生徒のコミュニケーション意欲を促し、伝え合い分かり合う達成感も感じさせることができる。生徒の「伝えたい」「わかりたい」という意欲を高めることのできるような興味深い話題や場面の設定、多様な活動方法を開発し、実践していきたい。

